

【基本構想】

No.	委員	頁	意見	対応
1	事務局	16	新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が開始されたことを追加。	16頁9行目に「様々な感染防止対策を講じているものの感染が収束しない中、～先行して医療従事者等の接種が開始されました。」を追加。

【基本計画】

No.	委員	頁	意見	対応
1	西條委員	-	できることなら、総合計画が完成した時に、裏表紙でもどこでも良いが、市民憲章を載せていただきたいと思う。	市民憲章について、掲載することといたします。宣言については、複数あることから、掲載方法については今後検討いたします。
2	大槻副会長	-	過去に暴力追放都市宣言や非核平和都市宣言を出しているが、現在はどうなっているのか。もしあるとすれば、市民憲章と一緒に表示する等、工夫してはどうか。ぜひ検討してほしい。	
3	大槻副会長	10	第1章の「住民同士の絆・支え合いで安全安心に暮らせるまち」の中で、全般的にそうだが、防災や消防機能等が入っているが、防犯がどこにも出てこない。安全安心なまちづくりは災害だけではないと思うので、再度見てほしい。	

No.	委員	頁	意見	対応
4	事務局	41	がけ地移転事業の内容を追加。	41頁「2 災害に対する備えを充実させる」の4つ目に「災害の未然防止を図るため～住宅移転を促進します。」を追加。
5	鈴木委員	67 90	行政もデジタルカーストに対して、市民の利便性を向上するような何か、そういったところに知恵を出すということが必要ではないかと思う。学校教育にしても、デジタル化によって教育格差が出るのは明らかである。率先して、どういうオンライン環境を石巻市から発信して整備していくか。産業では特に、経営改革、働き方改革、どんどん見合ったものを提案して行ってほしい。デジタル化、Society5.0というのが出ているが、そういったところを加味した展望をどこかに入れた方が良くはないか。	産業では67頁「1 事業者への経営支援を行う」、教育では90頁「1 充実した教育を行うための環境を整備する」でデジタル化への取組について表現しておりますので御理解願います。
6	事務局	71	施策展開の内容を整理。	71項「3 新たな生産体制・原料確保を推進する」の「水産物の安全性に関する証明手段を～」を「4 水産物の流通体制の強化を図る」に移動し、「3 新たな生産体制・原料確保を推進する」に「水揚量確保のための～」、「新たな水産加工品～」を追加。

No.	委員	頁	意見	対応
7	事務局	76 77	施策展開の内容を整理。	<p>76頁「3 豊かで身近な森林を再生する」において、「森林における松くい虫被害～」を「森林病虫害被害～」に変更。</p> <p>76頁「4 石巻産畜産物のブランド化を推進する」に「畜産振興に寄与する～」、「農畜産物と農畜産加工物の地域ブランド化～」(「5 安全で高品質な農畜産物の安定供給体制を構築する」から移動)追加。</p> <p>77頁「5 安全で高品質な農畜産物の安定供給体制を構築する」に「畜産環境の～」を追加。「ブランド化～」は「4 石巻産畜産物のブランド化を推進する」に移動。「海外マーケット～」は「国内外に向けた情報発信」に含まれるので削除。</p>

No.	委員	頁	意見	対応
8	青木委員	91 93	93頁の教育について、「学校教育の充実を図る」とあり、これはこれで結構だが、根本的に教育の問題というのは、課題や問題を切り開いていく、考える力をつけるというのが目的だと理解している。考える力というのが入っていないような感じがするので、ぜひ入れたらいいかと思う。	91頁7行目で「自ら考えて判断・行動する「社会を生き抜く力」」と表現している。 さらに8行目を学力面の向上だけではなく、より幅広い表現に改めるため「基礎学力の向上を重視した施策を展開してきました。」から「確かな学力とよりよく生きるための豊かな心の育成を推進してきました。」に修正。 93頁「1 学校教育の充実を図る」の1つ目を学力面の向上だけではなく、より幅広い表現に改めるため「 <u>自ら考えて判断・行動する生きる力を育成するため、その基礎となるひとりひとりの学力の定着と向上（確かな学力）を図ります。</u> 」に修正し、2つ目の取組として「 <u>道徳的実践力を育成する取組や人権意識の醸成を行うとともに、豊かな感性と人間性を育む取組を推進します</u> 」を追加。
9	木村委員	93	確かな学力の中に考える力、課題解決能力が包含されているのだろうが、よく見えない。石巻市でどんな子どもたちを育てようとしているのか見えてこない。	上記のとおり、学力面だけではなく、児童生徒の心の育成、考える力、課題解決能力を表現した内容に修正。
10	木村委員	93 103	外国語教育があるが、それとセットになって、国語教育や日本の伝統文化が一緒になっている部分もあり、石巻市には伝統文化を大事にしている学校がたくさんあるのではないか。それをどう考えているか。	市としても重要な項目として認識しており、具体的には、103頁「1 生涯学習環境を強化する」で学校における取組を含めて表現。
11	大槻副会長	107 110	第6章の行財政の関係で、全体で9項目を羅列してあるが、現在、広報広聴事業というのはどうなっているか。第1節の「多様な市民ニーズの把握」等と広報広聴事業が一緒のものと考えているのか。	広報広聴事業については、110頁「1 多様な市民ニーズの把握に努める」、「2 市民の関心を高める情報発信を推進する」に含めた形で表現。

No.	委員	頁	意見	対応
12	大槻副会長	107 111	第2節の「持続可能な行財政運営の推進」の中で、限られた人材や公共施設の維持管理等とあるが、震災の関係で公共施設が大分整備されている。今後、これらの公共施設の維持管理費等を想定した場合に、石巻市の財源、財政状況を当然加味していると思うが、職員数の適正化や組織のスリム化を含めた形での表現としているのか、その辺をもう少し分かりやすく表現すれば、市民の方々にも分かっていたのではないかと。	職員数の適正化、組織のスリム化については、111頁の17行以降で組織体制の見直しや職員数の適正化について表現。
13	岩田会長	3 117 119	第3編の対応方針が2つだけで、それに施策は1つだけとなっている。さらに、施策1の「復興事業を確実に推進する」に下水道事業しか載っていない。また、道路の整備など、復興に併せて、やるべきことはたくさんある。そういったところは入ってこないのか。読んだ人が勘違いしてしまわないよう、書きぶりをもう少ししっかりとした方がよい。	第3編は令和2年に定められた「第2期復興・創生期間」について、本市が各分野を横断し復興に向けて重点的に取り組む項目を抽出したものである。本市が復興完結に向けて引き続き取り組まなければならない「ハード事業」・「ソフト事業」を表現した結果、2つの対応方針及びそれぞれ1つずつの施策となっている。 上記の理由に対する文章上の表現が不足していたため117項(1)7行目に「第2編総合計画基本計画の中で、各分野を横断し復興に向けて重点的に取り組む項目を抽出した」を追記。併せて3頁17行目に同文章を追加。
14	佐藤尚委員	-	KPIを固定するという点に関しては、固定でなくても良いと思う。例えば低炭素社会を実現するためにグリーンスローモビリティの延べ利用者数だけを指標にするのか等、1つずつ見ていくと、もっとたくさんあると思う。KPIの指数について議論するのが、この審議会なのか他なのかというところは私も分からないが、もし固定するのであれば、もっと1つひとつのKPIの設定を見直して、議論した方がよい。	総合計画の達成度を確認する指標として各節レベルに対する数値目標であるKGIを設定している。また、KGIを達成するための具体的な事業の目標指標として各施策の展開にKPIを設定している。 各施策の展開の内容は事業を文章化したものであり、複数の事業が含まれているものが多数であることから、関連する事業の代表的なものをKPIとして定めている。

No.	委員	頁	意見	対応
15	青木委員	127	127頁に「地域産業力の競争力を強化する」とあり、KPIが「産業創造助成件数」となっている。企業にお金を配るとKPIが高くなると、そういう風にも読めるのだが、地域産業の競争力を強化するというのであれば、所得を上げる、生産性を上げる指標にした方が良いのではないか。	第6回審議会でKPIを提示。 本項目では、中小企業への支援や産業の6次化など、本市の有する多彩な地域資源を活かした産業の強化を示している。重点取組項目のKPIでは代表する項目を挙げているため「産業創造助成件数」をKPIとして設定しているが、総合計画基本計画基本目標4では商工業、水産業、農業など産業部門に関する内容を網羅して表現し、第1次産業から第3次産業までの多様なKPIを設定し、産業分野全体の振興を図っている。
16	青木委員	129	129頁の最初に「少子高齢化により様々な分野で」とあり、その通りだが、少子化と高齢化はそれぞれ違う話である。出てくる問題はそれぞれ異なり、労働力人口の減少、これが問題だという話だと思う。奨学金を出す、というのは結構だと思うが、生産性を上げるということをやはり1つの指標にすべきだと思う。	第6回審議会でKPIを提示。 本項目では、生産性の向上を目指すための要素のひとつとして、福祉面からのアプローチについて記載している。人口戦略の項目中、他の分野で生産性の向上に向けた取組を記載している。
17	岩田会長	145	第4編第2章が全体的に、個別計画に踏み込んでいる表現が多く、グリーンモビリティの部分を書き込みすぎている。一企業を応援するような文言を総合計画に入れるべきでない。これを推進したいという気持ちはよく分かるが、総合計画なのでその辺りを配慮していただきたい。	市全体としてSDGsに取り組んでいるところであり、具体的なSDGsへの取組として記載している。一企業を応援しているわけではなく、市全体がSDGsに取り組んでいく中での代表事例として記載している。
18	木村委員	-	カタカナ語がたくさん出てくる。70代、80代にとっては難しいだろう。一般化されていないものもある。149頁に「高齢者のデジタルデバイド（IT機器などの利用の得手不得手によって生じる格差）」と説明書きがあるように、必要に応じて、市民にとって分かりやすい説明書きがあったら良いと思う。	巻末に用語説明を追加。